

ULT通信

2018.6.26号 / vol. 79 発行 / ULT 図書館司書

今月の ULT 通信は 1 学期最後の発行になります。今は梅雨真っ盛りですが、夏はすぐそこまで来ているはず！みんな！梅雨（とテスト期間）を乗り切ろう！夏休み中も積極的に ULT を活用してください。

夏休み ULT 開館カレンダー

期末テスト期間～夏休み中は、開館日・閉館時間が変則になります。カレンダーをチェックしてから、来館してください。

7月 JULY							8月 AUGUST						
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
						X			1	2	X	X	X
2	3	4	5	6	7	X	6	X	X	X	X	X	X
午前授業	期末	期末	期末	期末									
9	10	11	12	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
				芸術鑑賞会									
X	17	18	19	20	X	X	20	21	22	23	24	X	X
				終業式							浦学フェスタ		
23	24	25	26	27	X	X	X	28	29	30	31		
30	31												

9:00～16:00
 9:00～14:00
 閉館日

↑夏休み中の閉館時間に注意！

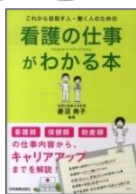


夏休み中も ULT はあなたをサポートします！

1 年生

キャリアガイダンス関連

キャリアガイダンスに興味をもった仕事について、本を読んで理解を深めよう！



2 年生調べ学習サポート



夏休み課題「修学旅行事前学習」「UragakuUniversity 事後学習」のコーナーです。渡航先別の参考資料リストと課題用紙も配布中！参考にしてください！

3 年生進路の情報収集



1 階の進路コーナーでは、新聞記事データベースが使えるパソコン 1 台と進路活動で参考になる資料を自由に使用することができます。

ULT NEWS

●アニバーサリー月間イベント 付録抽選会！

7/6（金）放課後に付録抽選会を行います。投票した生徒はぜひ参加してください。当日参加できない生徒も抽選対象なので、安心してください。不在者が当選した場合は、担任の先生を通じて付録贈呈となります。抽選券配布は 6/30（土）まで！



新着案内

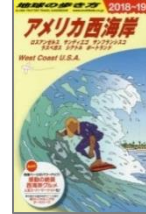
6月の新着は約60点です。一部抜粋で紹介します。

↓映画原作、人気シリーズの最新刊。

タイトル	著者	出版社
あの目見た花の名前を僕達はまだ知らない。上・下	岡田麿里	KADOKAWA
サクラダリセット④～⑦	河野裕	KADOKAWA
東京バンドワゴン ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード	小路幸也	集英社
都会(まち)のトム&ソーヤ 15 エアポケット	はやみねかおる	講談社
友罪	薬丸岳	集英社

↓旅のお供の定番。地球の歩き方シリーズ。修学旅行の調べ学習に！

タイトル	著者
アンコール・ワットとカンボジア 2018～2019	『地球の歩き方』編集室
シンガポール 2018～2019	
マレーシア ブルネイ 2018～2019	
アメリカ西海岸 2018～2019	
ゴールドコースト&ケアンズ 2018～2019	
シドニー&メルボルン 2018～2019	
フランス 2018～2019	



↓盛り上がりを見せるeスポーツの本など。

タイトル	著者	出版社
アメリカは食べる。アメリカ食文化の謎をめぐる旅	東理夫	作品社
アジアの現代都市紀行：変貌する都市と建築	樋口正一郎	鹿島出版会
ユニクロ潜入一年	横田増生	文藝春秋
空港で働く仕事ガイド	月刊[エアステージ]編集部	イカロス出版
eスポーツマガジン：時代をリードするトッププロゲーマーを照射する！	『eスポーツマガジン』編集部	白夜書房

コラムde!!レ。



第79回は笹木が担当です。テーマは「じめじめを吹っ飛ばす」。小嶋陽太郎『気障でけっこうです』をオススメします。表紙(ULTのは文庫版)の絵柄が示すように、雨の中、女子高生のきよ子が、公園の地面に首まで埋まった七三分けのおじさんに出会うシーンから物語が始まります。もう冒頭から意味がわからなすぎる(笑)。このシーンが印象的で、雨降りの梅雨時期に紹介する本に決めました。

きよ子は身動きの取れないおじさんを助けようとするものの、シャベルを取りに行った途中に交通事故に遭い、目覚めたときは病院に。きよ子の入院中、おじさんは穴から助け出されることなくあっさり死んでしまいます。しかしおじさんにはこの世に未練があった…。幽霊となって現れ「シチサン」と名乗るおじさん、きよ子にとりつきます。シチサンはなぜ埋められていたの？シチサンの未練とは？…謎に迫るうちに、きよ子も危険に巻き込まれますが、強烈キャラの友人・キエちゃん(私、キエちゃん大好きです！キエちゃん視点のオマケの短編付き。これがまたよい！)の助けもあり、一回り成長してラストシーンを迎えます。完全なハッピーエンドではないけれど、読んだ後はスッと爽やかです。

この小説、ミステリ？ファンタジー？青春モノ？友情モノ？なかなか一口には説明しにくい内容です。でもなんかおもしろかったな！と思える読後感。あとがきを読んで、その理由がなんとなくわかりました。この小説は作者の小嶋陽太郎さんのデビュー作だそうで、大学4年生の頃、就活せず、単位は足りず、卒論は書かず、不安と焦燥に駆られ、では態度をあらためて学生生活がんばろうというのではなく、なぜか精力を傾倒して小説を書いたしまったとのこと。自身で読み返してみても、未熟で恥ずかしい、でも血迷いと必死さの結晶した愛すべき作品であると述懐しています。その熱量が読み手の私にも伝わってきて、なんかわからんけどいい！という読後の興奮につながったのではないのでしょうか。というわけで、次回のテーマは「デビュー作！」にします。一生に一度の力作を知りたいです。